

「母の日」、「父の日」の園行事について

初瀬基樹

近年、ひとり親家庭のお子さんが、「母の日」や「父の日」といった行事で寂しい気持ちになったり、悲しい気持ちになったりしてしまう可能性があるという理由から、園の行事として「父の日」「母の日」を行わない、あるいは「家族の日」などと一緒にしておこなうところもあるようです。

当園でも、このことに関して、これまで何度か職員間で話し合ってきました。職員のなかでも意見がわかれるところではありますが、私（園長）自身の考えを改めてまとめてみることにしました。

- 行事で、寂しい気持ち、悲しい気持ちになってしまうというのは、その行事の取り組みや在り方に問題があるのではないか。
- 「母の日」や「父の日」の行事を取りやめたり、「家族の日」などと一緒にしてしまったりすることは、問題を先送りにするだけなのではないか。
- これから先の人生でずっと避け続けることはできないわけだし、そもそも「避ける」ということ自体が、そのこと（ひとり親家庭であるということ）をマイナスに捉えているということになってしまうのではないか。
- 「いろんな家族の形」があってもいいわけだし、どんな家族であっても、堂々としていられる世の中にしていくことのほうが大事なんじゃないか。
・・・などなど。

現段階では、「母の日」「父の日」の行事を無くす、あるいは「家族の日」などにまとめてしまうことが園の行事としての最善の策とは思えません。

子どもは幼いほど、まだいろんな価値観や思想、信条に触れたり、感じたりする経験が圧倒的に少ないので、さまざまな違い（多様性）についても、「そういうものなんだ」と受け入れやすいように感じています。ですから、こうした行事を通して、自分の家族と友だちの家族のいろんな違いを知り、それぞれ「違ってあたりまえなんだ」と感じ、「いろんな家族の形」があることを理解し、尊重し合っていく機会になっていくのであれば、それはそれで良いことなのではないかと思っています。

そもそも、「家族としての理想の形」などというものがあるわけではなく、どんな形であれ、それぞれの家庭が「幸せな毎日を送っている」ことの方が大切です。私たち職員側も「いろんな家族の形がある」ということを大前提として、ひとり親家庭のお子さんが、寂しい思いや悲しい思いをするような日にはならないように気を付けながら、「父の日」、「母の日」をそれぞれ大切な行事としておこなっていきたいと思っています。

もう少し付け加えますと、「父の日」や「母の日」といった行事を園で行うことは、「家族」について深く考えることにつながります。自分のお父さんやお母さんの存在について、あるいは友達のお父さんやお母さんについて、もっといえば、動物や生き物にとってのお父さん、お母さんについてなどなど、より深く興味を持って考えていくきっかけになればとも思っています。

取り組みを通して、自分のお父さんやおかあさんがどんな仕事をしているのか、あるいは、友達のお父さん、お母さんはどんな仕事をしているのかなどを見聞きすることにより、「世の中(地域)にはさまざまな仕事がある」ことを知ることができます。

また、おうちではだれがどんなことをしているのか。掃除、洗濯、育児、料理、介護、買い物、整理整頓、

大工仕事、修理や修繕、近所付き合い、仕事以外の消防団や地域の役職、近所付き合いなどなど……。具体的に、だれが、なんのためにしているのかなどを知るきっかけにもなります。

それらが、家族のために、あるいは自分のためにしてくれているということに気付くかもしれません。もしかしたら、自分の家にはお父さんやお母さんがいなかったとしても、ちゃんと必要なことをしてくれている人がいることや、自分のことを大切に想ってくれている人（おじいちゃんや、おばあちゃん、おじさん、おばさん、近所の方など）の存在に気が付くことができるかもしれません。

自分の成長は周りの人の見守りや支えがあったことに気付いたり、また今の家族の存在を確認していくことにもなります。

さらに、自分が赤ちゃんだったころの写真や、お父さん、お母さんとの思い出の写真を見たり、自分が生まれる前の話や、お父さん、お母さんが子どもだったころの話を聞いたり、さらには、おじいちゃん、おばあちゃんにお父さんやお母さんが子どもだったころの話を聞いたりして、それぞれの思い出を共有する機会になります。

そして、ふだんは特に意識せずにいっしょに過ごしていたかもしれませんが、こうした取り組みをきっかけに、お互いをよく観察したり、質問したりするようになり、それによって、子どもたちが、お父さんやお母さんに対する理解を深め、今までよりもっと好きになるかもしれません。もしかしたら、好きなものや苦手なもの、考え方など、自分とは違うところもあるんだということに気づくようになるかもしれません。

お父さんやお母さんの趣味や得意なこと、好きなものや苦手なものなどなど、自分以外の身内のことをより深く知ろうとするきっかけになるのもいいなと思います。

その人のことを深く知り、理解することで、思いやりの気持ちも育まれていくのではないかと思います。

ただ、こういう行事だからと、初めから「お父さんやお母さんに感謝する日」などのように、「感謝」を前面に押し出して、感謝の気持ちを持つことを子どもに押し付けるのは違うなと感じています。取り組みを通して、子どもたちの中にそういう気持ちが自然と湧き上がってきてくれたら幸いだと思っています。

そして、まだ難しいことかもしれませんが、自分のお父さん、お母さんだけに限らず、動物や生き物にとっての「父」「母」の存在理由についても思いを馳せるきっかけに……。いずれ、自分（命）はどこから来たの？と考えるときがやってきます。「お父さん、お母さんがいたからこそ、今ここに、自分が存在する」という事実があるわけで、深いところまでは理解できなくても、そういうことをこれから幾度となく考える経験を通して、今後、「自分」という存在や、自分のアイデンティティについても考えるきっかけになっていくのではないかと思います。

「さまざまな事情やいろんな家族の形があっていい」ということをご家庭でお子さんと話すチャンスでもあると思っています。

両親が揃っている子どもも、そうでない子ども、さまざまな家族の形があることを知り、決してそれはマイナスではないこと、いろんな苦勞をしてきたり、今も大変な思いをしているかもしれませんが、それぞれの家庭が「幸せを願って過ごしている」ことを知って、人のことを思いやる大事な機会としていきたいのです。

とはいえ、園から、「家族の在り方」、「お父さん」や「お母さん」についての価値観をご家庭に押し付けるようなことはしたくありません。それぞれのご家庭で、どのように考えていらっしゃるかと、どのようにお子さんにお伝えになっているのか、また、今後お子さんにどのように考えてほしいかなどを事前に担任や必要であれば園長、副園長も交えて話をしながら、これらの行事をどのように迎えるかご相談いただけたらと思います。